



ボケ

143 編は端書きに 賛歌。ダビデの詩。とあります。

最初に、主よ、わたしの祈りをお聞きください。嘆き祈る声に耳を傾けてください。(1) と、あるように、「嘆きの祈り」とみることができます。詩人は主の眞実、恵みに信賴して、願い求めています。その第一のことは、あなたの僕を裁きにかけてください。(2a) と、主の前に立つとき、自らの罪深さを隠しえないことを覚え、裁きを受けなくて済むようにと求めています。詩人は 御前に正しいと認められる者は／命あるものの中にはいません。(2b) と、罪を認め、憐れみを受けられるように祈っています。

2 連では敵の恐るべき力の前に立たされた自分の姿を正直に語っています。敵はわたしの魂に追い迫り

／わたしの命を地に踏みにじり／とこしえの死者と共に／闇に閉ざされた国に住ませようとしませう。わたしの霊はなえ果て／心は胸の中で挫けます。(3,4) 主と結びついている詩人の根源的な部分である 魂 命 霊 心 胸 などが、脅迫を受け、挫折しそうになっています。目の前の苦難に捉われ、無力感を覚えずにいられないでしょう。けれども、詩人には心に想起するものがあるのです。いにしえの 日々を思い起こし／あなたのなさったことをひとつひとつ思い返し／御手の業を思いめぐらします。(5) すると、不思議な力を得るのです。あなたに向かって両手を広げ／渇いた大地のようなわたしの魂を／あなたに向けませう。(6) 主に心を向けることによって、祈りへの道が開かれていきます。

3 連は詩人のひたむきな祈りの言葉が最後まで続きます。詩人は具体的に一つ一つ求めて祈ります。第一に、主よ、早く答えてください(7) という切迫した状況の訴えです。朝にはどうか、聞かせてください(8) と、主の答えを聞きたいという時刻を述べて、祈っています。第二に、答えていただくのは裁きに立ってではなく、あなたの慈しみについて。(7) と願い、主の祝福、憐れみ、慈愛を求めています。第三に、行くべき道を教えてください(8) と、教えを求めています。主の教えこそ、あなたに、わたしの魂は憧れているのです。(8) と述べているように、詩人の理想の道なのです。第四に、主よ、敵からわたしを助け出してください。(9) と、主の助けを求めています。主の助けにより、御もとにわたしは隠れます。(9) と告白しています。主は、救いの岩、砦であり、主の懐に隠れ、憩うことが詩人の究極の願いといえましょう。続いて、主の懐に隠れている時、主と共にいる時こそ、御旨を行うすべを教えてください、安らかな地に いることができ、わたしに命を得させ てください、わたしの魂を災いから引き出して いただける、と信じています。最後に再び 敵を／わたしの魂を苦しめる者を／ことごとく滅ぼしてください。(12) と求め、わたしはあなたの僕なのですから。(12) と、主との関係性に立って、願っています。

『讚美歌 21』は 566「むくいを望まで」 <https://www.youtube.com/watch?v=gC3mphII-Ps> を関連讚美歌としてあげています。これは「主のみ旨」に従って生きたいという祈りの讚美歌です。

ジュネーブ詩編歌は低音によるピオラ・ダ・ガンバによる演奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=Ki0glERC31o&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=143>